

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

府社協 地域福祉部

TEL.06(6762)9473 / FAX.06(6762)9487

## OIUキッズキャンパス

\*\*\* 守口市 \*\*\*

子どもと地域社会の交流を深めるために、大阪国際大学・短期大学部(以下大学)、守口市社会福祉協議会(以下市社協)、民生委員・児童委員(以下民生委員)、よつば小学校がOIUキッズキャンパス実行委員会を構成し、子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

市社協と大学は昨年度、地域福祉の推進と人材育成、地域活動への参画の促進などに関する連携の覚書を締結し、民生委員や地区福祉委員会と協働で地域貢献を行うネットワークを築いています。5月には子どもの居場所づくり事業として、大学を会場に『OIUキッズキャンパス』



「下の子にも分けたってや！」と子どもたちの楽しげで元気な声が響きました

ス』をスタート。「居場所づくり」「学習支援」「食育」を三本柱に、地元のよつば小学校4、6年生を対象に月1回のペースで開催しています。他にも、大学と連携している京都府南山城村の農家から田んぼを開放していただき、子どもたちが田植えや稲刈りを体験するイベントも行いました。

運営スタッフには民生委員や地区福祉委員会、市社協、大学職員、学生ボランティアが関わっており、プログラムの企画、調理、勉強のサポートなど各々の得意分野を生かして活動しています。

一日のスケジュールは、まず学校の宿題などを持ち寄って勉強をします。学年ごとに分かれたグループに学生ボランティアが付き添い、サポートします。待ちに待った昼食は、調理を民生委員と地区福祉委員会が担当。

ちらし寿司や流しそうめんなど、子どもの視点に立ったメニューでも好評です。また、稲刈り体験で子どもたちが収穫した米や、形が悪いため市場には出ない野菜を使った料理を提供するなど、食育の場としての機能も果たしています。

昼食後は大学内のグラウンドや教室を使用し、運動や手芸などのグループに分かれてめいっぱい遊びます。

一日を通して学生ボランティアがプログラムの主な進行を担っています。市社協の山内仁さんは「比較的年齢の近い大学生とは距離も縮まりやすい。地域のおかげで子どもたちの笑顔が増えてきた」と話します。

子どもたちが喜ぶ料理、毎回変わる遊びのプログラムなど『子どもたちにとって楽しみの多い場所』となるように、スタッフが一丸となって試行錯誤を重ねています。今後の運営については、まず地域に定着させることが第一の目標。これからは子どもたちに楽しんでもらえる場所として工夫を重ねつつ、長く継続できるように安定した運営を心がけていくとのことです。

### 地域を理解し、地域に必要なとされる

民生委員児童委員活動を

近プロ会議  
大阪で開催!

府民児協連は、9月12、13日に「平成29年度近畿ブロック府県・指定都市民生委員児童委員関係事業会議」を開催しました。

1日目は、幹事府県として「社会的に孤立している人々や親子への支援にむけて」と「民生委員・児童委員活動の見える化」をテーマに、府民児協連や府内の市町村民児協での取り組み報告とともに、課題を提起しました。これを受けて、3つの

2日目は、各分科会の座長から報告があり、自治会等の活動と連携を深め地域力の強化が必要であること、地域の文化(住民の意識)を理解したうえで情報入手や活動の方法を工夫すること、民生委員活動の理解と共感を得るのが「見える化」を進める本来のねらいであること、などを共有しました。

分科会に分かれ、近畿各府県・指定都市での取り組み事例や課題を共有し、今後の取り組み方策について協議しました。

続いて、全社協・民生部の池上部長が「民生委員制度創設100周年を迎えて」と題して総括講義を行いました。昨年度実施した全国モニター調査や福祉制度の動向等を紹介するとともに、民生委員に求められる役割も多様化し、「大変だがやりがいがある」活動にしてほしいと話しました。

また、全民児連の得能金市長は「民生委員でないといけないことをしっかりやっていく」と述べ、近畿ブロックとして今後も連携を密に活動を進めていくことを確認しました。



近畿の民児協関係者132人が大阪国際会議場に集いました



## eコミュニティ・プラットフォーム 操作研修会を開催!

大阪府市町村社会福祉協議会連合会は、『eコミュニティ・プラットフォーム(以下、eコミ)』を活用した地域福祉活動支援を今年度の重点事業として取り組んでいます。

eコミとは、府内社協間の情報連携を円滑にするためのICTツール

です。災害時における被災状況や活動状況などの迅速かつ適切な情報収集や情報発信(見える化)、災害VC運営の省力化



地域資源を実際にマップへ落とし込むことができます

だけでなく、平時における見守り活動や要配慮者支援といった小地域福祉活動の活性化なども期待されます。

河内長野市社協、阪南市社協、松原市社協では、災害VC設置運営訓練や、見守りマップ作りなどをすでに取り組み始めています。

より一層の普及・利用促進のため、8月24日、25日に操作研修会を開催しました。

まずはツール開発のアドバイザーでもあるコミュニティ・エンパワメント・オフィスCOE(ED)の乗原英文さんが、モデル地区である3市社協のeコミ導入に至るきっかけや、検証状況を解説。普段はもちろん、災害時にもみんなで助けあえる地域づくりを進めるツールとしての事例を紹介しました。

次にツールの開発元である国立研究開発法人 防災科学技術研究所が、入力されたデータは蓄積されていくため、過去の災害時の被害状況を検証し改善に利用したり、今後想定される災害時の参照情報として役立てられるなど、デジタル化された情報の強みについて他府県の事例を用いて話しました。

取り組み紹介の後には、実際にeコミのポータルサイト機能とマップ機能の操作を体験。ポ

ータルサイトでは一般向け、府内社協間など、対象ごとに閲覧制限を設けながら情報発信・共有できる機能を実践しました。

続いて「見守り活動マップ」を作成。見守り対象者の情報をマップに落とし込み、訪問状況等が一目でわかることを体感しました。他にも管理しているデータをマップに反映したり、逆にマップ内のデータをエクセルに変換するなど、さまざまな機能を実践しました。

参加者からは、「マップに情報を反映することで地域に足りない社会資源や物資などの状況が一目で分かり、早く対応できる」「さまざまな立場の人が持っているデータを一元化できる」といった声があがりました。連合会では今後も、府域での地域福祉活動支援におけるeコミの普及や、府内社協間の災害時支援体制の整備を進めます。



実際にツールを操作している参加者の様子

## 大阪狭山市社協 「ボロクエ」で 福祉を楽しく学ぶ

8月19日、市福祉センターさやま荘・さつき荘で、ボランティア体験学習として、「ボランティアクエスト」(略称ボラクエ)が開催され、小学生の男女15人が参加しました。

担当者は、「冒険をテーマにゲーム感覚のボランティア体験を通して、『困っている人がいたら放っておけない』、そんな心を育みたい」とねらいを語ります。

当日は、市ボランティアグループ連絡会に所属しているボランティア25人が、講師・サポート役として参加。

午前はアイスブレイクによる雰囲気づくりの後、車イス操作や折り紙、認知症の方や聴覚障がい者とのように関わるかを講義で学び、午後はさまざまなボランティア体験(ミッション)の中で、ボランティアが扮する困りごとを抱えた人と関わるロールプレイングゲームを実践しました。

子どもたちは、冒険の舞台に見立てた福祉センター内を散策しながら、5つのミッションの

クリアをめざして、楽しみながら真剣に取り組んでいました。これまでジュニアスクールは、宿泊型やボランティアとの交流など、形態やプログラムを変えながら、約30年間継続されています。

今年度は、来春にも開催を予定しており、工夫を凝らした福祉教育実践に、今後も目が離せません。



ワクワク感いっぱいの体験のしおり。担当者の思いが詰まっています。



冠づくりの折り紙では、高学年の子どもが年下をサポートする様子も